



解説

関節リウマチに合併した反応性AAアミロイドーシスで血液透析に導入された20症例を検討した。8症例に対して生物学的製剤を使用(生物学的製剤使用群)し、使用されなかった12症例(生物学的製剤非使用群)と患者背景、生命予後に関して、レトロスペクティブに検討した。

結論 患者背景は両群間で差は認められなかった。生存曲線では両群に差は認められなかった($p=0.279$)。Cox比例ハザードモデルを用いて年齢を補正したが、両群に差は認められなかった($p=0.550$)。死因を検討したが、生物学的製剤使用群で有意に感染症による死亡が多かった($p=0.001$)。

血液透析導入後は生物学的製剤で治療を行っても生命予後の改善は認められなかったが、血液透析患者に生物学的製剤を使用する場合は感染症に対する対策が重要である。